

第2回 次世代リーダー養成アカデミー開催



平成24年4月20日、「第2回次世代リーダー養成アカデミー」がJISA会議室で開催された。本アカデミーは、次代を担う人材が自らのレベルアップを図れるように、業界内外の有識者による計3回のテーマ別連続講演を通じて、情報共有とコミュニケーションの場を提供するものであり、JISA人材部会・企画WG(座長:小野田祐子・TIS(株)執行役員)が企画運営を担当する事業である。

第2回となる今回は、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会・細川泰秀顧問を講師に招き、グローバル化やサービス化の流れのなかでのビジネス環境の変化に伴うユーザーニーズの多様化に鑑み、プロジェクト成功のポイントを探ることを狙いとしましたもので、JISA会員企業から29名が参加した。

細川氏は、「ユーザが喜び、ベンダも喜ぶITサービスを考える」と題して講演し、「ソフトウェア産業は製造プロセスを確立する形のプロセス志向であり、バグがあるのは当たり前という発想がまだに残っている。ソフトウェア開発もハードウェアの製造と同様に、『プロダクト志向あつてのプロセス志向』という考え方で、目標値を持ったPDCA管理が必要だ」と訴え、参加者にこれまでのプロジェクト管理法の曖昧さや不十分さについて考えるよう促した。



6名ずつ5グループに分かれたグループ討議では、①利益が上がり、ユーザに喜ばれるプロジェクト管理とは？②そのためには、何をすればよいのか？を論点として、過去の失敗とその時に講じた対策について、参加者各人が事例を出し合うなどして話し合い、最後にグループ毎に纏めた結果が発表された。講評で細川氏は、各グループが共通に課題としていた見積りなどの「透明性」に触れ、従来のウォーターフォール型の管理法をベースに日本の開発環境に適した形に進化させた「U字型プロジェクト管理法」による解決策について解説し、最後に「どのようなプロジェクト管理をやっているのかが大きく影響してくるのであり、やるべき

ことをやっていたら良い品質は付いてくる。そういうことを明確に『見える化』していこうではないか」と締めくくった。

終了後には懇親会が開かれ、そこでも議論が絶えることはなく、参加者は、終始一貫してたいへん充実した勉強会であった、と感想を述べていた。

最終回である第3回は、平成24年5月18日に、JISA 副会長・技術委員長の國井秀子氏(リコーITソリューションズ(株)取締役会長執行役員)による「知識集約型に向けたイノベーションの実践」をテーマに開催する予定。

(薦田)